

# 野田九条通信

2015年6月 114号

「野田・九条の会」事務局  
Tel 7122-0502

野田・九条の会ホームページ  
www43.tok2.com/home/article9nodan



## 止めよう、憲法放棄の戦争法案

### 個人情報提供に停止請求を!

政府が盗聴法の拡大や共謀罪の成立を画策している中、個人情報の外部提供の危険性は増しています。野田市は65歳以上の個人情報を市民に無断で警察へ提供しています。みんなで停止請求書を提出しましょう。

- 6月16日(火) 10:00**  
 集合 市役所玄関左の資料コーナー  
 持参 ① 利用停止請求書  
 するもの (枠内は記入不要)  
 ② 本人開示の文書  
 ③ 身分証(免許証等)

予想される拒否に対しては、不服審査請求をして意見陳述ができます。その点も考慮して、講師を呼んで今回の件について学習会を行います。

**6月10日(水) 13:30~ 北部公民館**  
(終了後懇親会あり)

■ 請求書を出す方は、ご一報ください。  
皆川 7157-1026

### 今月の予定

**6月6日(土) 13:30~**  
**第3回平和のつどい実行委員会**  
 中央公民館講座室 平和のつどい実行委員会

**6月7日(日) 13:30~**  
**憲法カフェDVD「少年H」(水谷豊・伊藤蘭)**  
 南部梅郷公民館 南地域九条の会

**6月9日(火) 10:00~11:30**  
**9の日行動 集団的自衛権反対署名**  
 川間駅南口集合 野田・九条の会

**6月13日(土) 14:00~17:00**  
**野田・九条の会定例会**  
 中央公民館講座室

**6月19日(金) 13:00~16:00**  
**DVD上映と懇談**  
**「狂気の戦場・ペリリュー-島~“忘れられた島”の記録~」**  
 櫛のホール研修室 子どもの未来を語る会

**6月24日(水) 10:00~**  
**戦争法案反対**  
**国会前連続座り込み行動**  
 衆議院第2議員会館前

一緒に行きませんか?  
 愛宕駅 10:07 発  
 柏行き先頭車両乗車



初めてのピースパレード  
 このような行動には初めての人も多く、パトカーを先導にそれぞれの団体の旗を持ち、「集団的自衛権反対」「戦争する国にはさせない!」とシユプレヒコールをしました。沿道のお店から出てきて話を聞いてくれた



人たちが、車の窓から珍しそうに見ているドライバーなど、街の中にさわやかな風が流れたようです。来年はもっと大勢でやりたいとの声も...。参加された皆さんお疲れ様でした。

やってよかった  
 堂々と自分の  
 意見を言えた

### 柳澤協二さん 講演会

憲法を蔑ろにし、戦争への道を進める安倍政権。この動きを止める手立てはないものでしょうか。安倍政権の安保政策のどこが問題で、何が危険なのか。来る7月26日、元防衛官僚という立場から柳澤協二さんに講演していただきます。私たちの運動のヒントにしたいと思えます。ふるってご参加ください。

沖繩では辺野古基地建設に反対する戦いが続いています。政府は沖繩の意思を無視して工事を進めています。このことは戦後ずっと沖繩に基地を押し付けてきた日本全体の問題です。



### 「辺野古基金」

みずほ銀行那覇支店  
693-1855733

ゆうちょ銀行  
708-1365941

### 辺野古の戦いに 連帯しよう

現地に行ったり、モに参加できなくても、資金面での参加・連帯の気持ちを表すことができます。4月9日、鳥越俊太郎氏や宮崎駿氏などが呼びかけ人となって設立された辺野古基金へカンパを。主な振込先は次の通り。

**7月26日(日)**  
**14:00~**  
**中央公民館講堂**

# 九条の眼 「絶対にない」と君が言ったから… 戦争法案が平和法案？

## 平和とは戦争しない・させないこと

### ◆ “平和、平和”と付く安保法案に騙されるな

安倍政権は五月十四日安保法案を閣議決定した。集団的自衛権行使容認に続く自衛隊に海外で戦闘可能とさせることは専守防衛を大きく超える安保政策の大転換だ。

法案は新たな「国際平和支援法案」と改正案十本をまとめた「平和安全法制整備法案」で、これには自衛隊法やPKO法、周辺事態安全確保法などの関連法案が含まれる。柱となるのが「武力攻撃事態法案」で米軍、その他の外国軍と共に武力行使が出来ることだ。これら法案は平和と付くが武力行使が盛り込まれている。騙されてはいけない。

安倍首相は立法の府である国会に諮る前に米国会で「この夏までに成就させます。」と演説し、米軍の戦略に自衛隊が組み込まれることを世界に発信した。

法案説明の記者会見でも「米国の戦争に巻き込まれるようなことは絶対にない。」また「戦闘に参加することは決してない」、「後方支援で武力の行使は決して行わない。」と述べる。弾薬や給油の兵站を担うこと、「現に戦闘を行っている現場」以外へと拡大することは後方支援であっても戦闘行動と一体であり攻撃されれば反撃することとなり戦争へと移行しかねない。

米軍との自衛隊一体化は進行しつつある。防衛省は事故多発の米軍輸送機オスプレイを17機3,600億円で購入するとし、米軍は普天間、横田、自衛隊は佐賀空港を基地とする。配備されれば日本の空は新たな危険空域が生ずることとなる。

### ◆ 外交の義務を果たせ

主権者と立憲主義を無視する安倍政権は明らかに違憲な方法で戦争できる国家につくり変えようとしている。

政府に課せられた責務は外交により戦争はしないこと、国民は戦争をさせないことと肝に銘じてきた。安倍首相の50カ国を超える地球俯瞰外遊は友好国とすべき近隣国を疎外したまま外交の停滞を継続させ危機感のみを募らせる。政権は互惠関係を醸成するよう外交努力し、国民から負託された義務を果たさなければならない。

### ◆ 主権者が国のかたちを決める

安全保障政策の転換は国のかたちを変えることであり、主権者国民に問わなければならない。安倍政権の最大の目標は「我が軍」を憲法に盛り込むことであり、国民の主権を制限する国づくりである。

来年の夏は憲法が争点になるであろう参議院選である。一年後に迫る選挙は一人ひとりが護憲と立憲主義を更に定着させ、主権者が国のかたちを決める最大のチャンスと捉え行動したい。

片桐 直勝

## 沖縄を、我が身に引き寄せて

5月の連休を利用して沖縄普天間基地～辺野古～嘉手納基地をめぐり、沖縄の今を見てきました。

初日は、米軍普天間基地に向かいました。国は普天間の負担軽減を理由に移設を強行しようとしていますが、詭弁でしかありません。2004年8月13日に米軍ヘリが墜落・炎上した沖縄国際大学の駐車場にレンタカーを止め基地のゲートまで行き、オスプレイが上空を飛行する姿を見ました。

次は辺野古に常設されているテント村に向かい、「私たちは、普通の市民です。」とおっしゃる5人の方にお会いし話を伺いました。その話の中で初めて知ったことは、埋立申請書に軍港機能の記載があるということでした。埋立に隣接する場所は、水深が深く軍艦が接岸できるだけの深さがあることが分かります。辺野古にこだわ



る理由の一つなのではないでしょうか。その後、埋立が計画されているエリアがよく見えるよう、反対側の海岸に移動し、ブイが浮いている広い海面を目の当たりにしました。

翌日は、嘉手納基地に一番近い道の駅の屋上から基地を眺めました。道の駅の敷地内に、デシベルの単位で騒音を計測するボードが設置されており、通常の車の往来では、60デシベル位でしたが、軍用機が飛行した際には93デシベルまで上がりました。そのボードの下で、幼い子どもたちが、大声大会を真似て叫び声をあげて競っていました。

この子どもたちに、二度と戦争で命や人権を奪われることのない国を手渡さなければなりません。沖縄の問題を我が身に引き寄せ、立憲主義を破壊するやり方に「ノー！」の声を上げていきましょう。

小室 美枝子